表彰を受けた岩舘ひろみさん

税に関する作文表彰

国税庁が募集する平成26年度「税に関する高校生の作文」で岩舘ひろみさん（東高校・3年）が久慈税務署長賞を受賞しました。作文を書くにあたり、税金がどのように復興に使われているかを調べたという岩舘さん。「作文を書いてみて、これまであまり意識しなかった税のことを改めて考える機会になりました」と話しました。

租税教育推進校等表彰

租税に関する教育の推進に功績のあった学校などに贈られる租税教育推進校等表彰。平成26年度は市内から2校が受賞しました。

■仙台国税庁表彰
▶長内小学校
■久慈税務署長表彰
▶長内中学校

コミュニティ助成

（財）自治総合センターが実施する宝くじの助成制度を活用し、このたび大湊町内会（大湊清信会長）と門前町内会（對馬博貴会長）が地区行事などに活用する備品を整備しました。同制度は、宝くじの普及広報活動費を活用して、地域団体が行う活動を推進するもの。宝くじの収入は、地域活動の活性化にも役立てられています。

左／大湊町内会が整備した横断幕
右／門前町内会が整備した発電機

平成２７年度

保育所の入所申込書を配布します

保育所は、仕事や病気などの理由で児童を保育できないとき、保護者に代わって児童を保育する、最も身近な子育て支援の施設です。保育所について、また子育て情報などにつきましても、お気軽に問い合せください。

保育所の情報は、市ホームページにも掲載されています。

問子育て支援課　☎52-2169

ＨＰアドレス：http://www.city.kuji.iwate.jp/index/life/life_02.html

子育てに新たな制度

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が始まります。新制度では、保育所・幼稚園・認定こども園を利用する場合、市から「保育の必要性の認定」を受ける必要があるほか、保育料を算定する基準も変更されます。

久慈市の場合、保育所のみ変更の対象となりますが、入所の申し込みと併せて認定申請を行うため、特別な手続きは必要ありません。

申し込みの方法など

入所案内や申込書を配布します。申し込み後、面接の日程を連絡します。

■配布期間
12月1日(月)から

■配布場所
子育て支援課
（市役所1階⑥番窓口）
※現時点で入所している園児については、各保育所から配布されます。

■受付期間
12月15日(月)～1月7日(水)

■申込受付
第1希望の保育園

■申込方法
入所申込書に必要な書類をそろえて申し込みください。

■面接日時
2月2日(月)～2月6日(金)
9時～17時
※2月2日(月)は、18時30分まで

■面接場所
子育て支援課
（市役所1階⑥番窓口）

●4月以降の入所希望者
4月以降に、新たに保育を希望する場合は、市に認定申請が必要です。市が認定証の交付と、利用希望施設との調整を行い入所を決定します。

●市外の施設への入所希望者
久慈市に住民登録があり、市外の施設を希望する場合は、久慈市で認定申請をする必要があります。

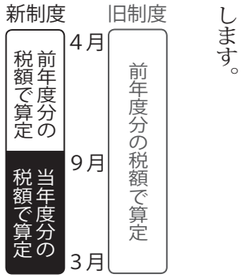
◆保育を必要とする事由◆

▶①月48時間以上の就労（フルタイム、パートタイム、夜間、自営業などの居宅内労働を含む）▶②妊娠・出産▶③保護者の疾病・障害▶④同居又は長期入院している親族の介護・看護▶⑤災害の復旧▶⑥求職活動（起業準備を含む）▶⑦就学（職業訓練校等における職業訓練を含む）▶⑧虐待やＤＶのおそれがある場合▶⑨育児休業取得中に、既に保育を利用している子どもの継続利用が必要であると認められる場合

保育料の基準も変更

保育料の算定基準は、これまでは保護者の前年分の所得税額で算定されていたものが、平成27年度からは、**市町村民税の所得割課税額で算定**されます。なお、新制度では**毎年9月が保育料の切り替え時期**となり、算定にあたり8月以前は前年度分、9月以降は当年度分の税額で決定します。

平成27年度の保育料は来年3月に決定されます。詳細は、ホームページなどでお知らせします。



10月24日から26日の3日間、久慈市を中心とした近隣6市町村で「第11回全国ほんもの体験フォーラムinいわて」（同実行委員会主催）が開催。全国から体験学習や教育旅行に取り組む団体などが集い、各市町村のプログラムを体験する「体験ツアー」やフォーラム、情報交換会などが行われました。

あいさつに立つ達増知事

10月25日に行われた開会式では、実行委員長を務める遠藤譲一市長が「グローバル化が進む今こそ、地方が頑張らなければいけない時代。連携を強め、学び合える実り多い大会となることを期待します」とあいさつ。続いて、実行委員会名誉会長の達増拓也岩手県知事が「本格復興に際して観光・交流の果たす役割は大きく、地域に眠る本物の魅力を掘り起すことが地方消滅を回避することにもつながると考えています。そのためにも、体験型観光の一線で活躍する皆さまと意見交換できる本フォーラムには大きな意義があると感じています」と話し、体験型観光の促進に期待をにじませました。

白熱のパネルディスカッション

続いて行われた全体フォーラムでは、近隣市町村で活動する団体として、久慈市からは侍浜町で漁業体験やサッパ船クルーズに取り組む「浜人倶楽部」の桑田鉄男代表が活動の事例などを発表。「体験学習で日本に『心の豊かさ』を取り戻そう」をテーマとしたパネルディスカッションも行われ、企業など一般団体の受入拡大へ向けた提言がなされるなど、体験型観光の拡大へ向けた活発な議論が行われました。

山車の展示も大盛況でした

26日の課題別分科会では、6市町村の会場に分かれ、各会場でパネルディスカッションを展開。久慈市会場では、官民一体となった取り組みの必要性などを確認しました。

会場には南部ダイバーも登場

体験型観光の可能性

産業振興部交流促進課
二ツ神 一洋 総括主査

現在、体験型観光の受入人数は例年約7,000人で推移しており、その経済効果は5,000万円程度。震災による落ち込みからは立ち直りつつありますが、さらに増やしていけると思っています。そのためにも、民泊の受入先など、協力していただける担い手を増やしていかなくてはなりません。

延べ1,700人の参加を得た、本フォーラムの開催により、久慈地域の体験型観光の情報を広く発信することができたのではないかと感じています。また、全体フォーラム、課題別分科会ともに多数の地元からの参加もいただきました。これを機会に、体験型観光を知ってもらい、より一層の交流人口拡大を実現し、地域の活性化に貢献していきたいです。